

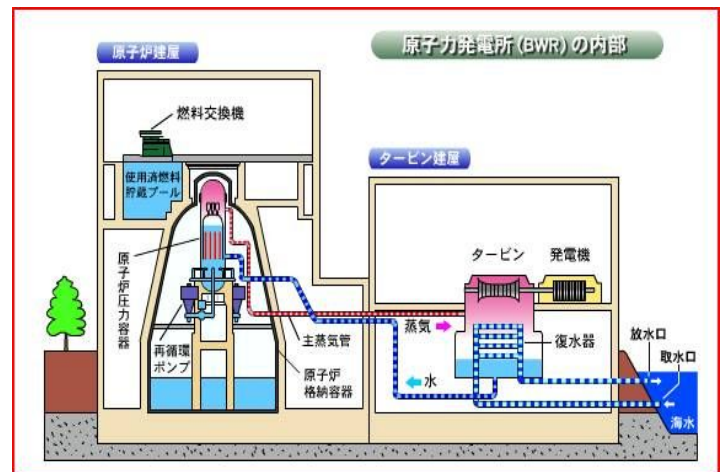
「すべての原発を廃炉にしよう！」シリーズ17

東電またもや事故隠し？

東電は7月22日、福島第一原発の高濃度汚染水が海にもれていることを発表した。しかし5月下旬から汚染監視用の井戸から高い放射能が検出され。規制委員会は6月26日に調査するように、東電に要請していたにもかかわらず1ヶ月も過ぎてからの発表であった。しかも参議院選挙が終わった翌日の発表には、意図的に事故を隠していたと言える。

それは原発再稼働をもくろむ電力会社が、参議院選挙で「原発推進」を掲げる自民党を勝たせるために策謀したものである。自民党が、あえて原発や憲法改正問題を避けて、「経済問題やねじれ解消」のみを掲げ、争点を隠した選挙運動をおこなったことを背後から支援した行為といえる。

タービン建屋地下に貯まる汚染水は7万5千トンあり、さらに1日に400トンの地下水が流れこんでいる。この汚染水が建屋地下からトレンチ（ケーブルや海水を汲み上げる管などを収納する）を通じて海に流失している。



放射能汚染水は2年間流失し続けていた…

これまでも複数の海洋生物学者が、福島第一原発周辺で獲れた魚の放射性物質の量が異常に高いことなどから、放射能汚染水が途切れることなく漏れ出している危険性について、度々警告を行ってきた。

しかし東電は「全て2011年3月の事故の影響が残っているもので、新たな流失ではなく環境への重大な影響はない」と否定していた。

まさに東電・政府・マスコミなどの原子カムラによる「事故隠し」は続いている。そして東電を含む電力会社は従来のままの「安全対策」で原発再稼働をもくろんでいる。